

平成28年度 防災講話

先週の10月14日(金)に実施された3年生対象のキャリア教育講話に引き続き、17日(月)にも池田町とのタイアップのもと、キャリア教育の一環として、全学年を対象に『防災講話』を実施しました。



講師として、岐阜大学客員准教授の村岡治道氏をお招きし、

『地震災害の実態と自助・共助のあり方 ～生き残るパターンと失敗するパターン～』という題で、2時間にわたる実り多い講演をしていただきました。



講演の内容は、我々の地震に対する認識が根底から覆される程ショッキングなものでした。

阪神淡路大震災をはじめとする過去の大震災において、実際に家が倒壊し、部屋の棚や冷蔵庫が宙を舞う様子や、家の造りによって、例え震度5程でも家が倒壊する様子、倒壊したロッカーや割れた窓ガラスの破片により行く手を遮られた学校の廊下の様子…等々。

生き残るパターンとして、部屋の見取り図を描き、倒れそうなものに印をつける作業を行いました。部屋の配置を認識し、それに対して何らかの対策を立てることで、自分や家族の命、将来の自分の愛する子供の命を救える可能性が高まります。
「つかえ棒」の設置方法が意外と間違っていたことを実感させられました。



地震対策グッズを紹介してくださいました。



家具を固定するL字型金具は、石膏ボードに固定するだけでは何の意味もなく、その奥の柱にしっかりとした長さの釘で固定する必要があるそうです。ホームセンターでは、その柱を簡単に探すことができる装置を手に入れることができます。

地震の揺れでブレーカーが落ちる感電ブレーカーは、1,500円程で購入が可能で、少額の投資で数千万円の家を通電による火災から守ることができます。



命を守る訓練のあり方について

先日、本校で実施した「命を守る訓練」の避難風景を撮影した映像を実際に使って検証し、教室が地震で揺れる実験映像と比較することで、今までの訓練がいかに実践的ではないかを痛感させられました。

実際に地震がおこれば、停電により校内放送もかかりえない状況下において、我々はどのように自分の命を守り、どのように避難すべきかを教えてくださいました。



ダンゴムシになれ！

机の下に潜る際に、今まで我々が行ってきた方法では揺れのために転げまわって何の意味もないことが実験映像ではっきりと示され、正しい机の潜り方と身体の置き方を分かり易く示して下さいました。身体をダンゴ虫状態にし、机の脚の手前と奥側を対象に持つことで震度7までの揺れに対応できるのです。



最後まで聞くな、待つな！ ヨーイドンの「ヨ」でフライングを！！

緊急地震速報が聞こえたその一瞬の判断が、実は我々一人一人に委ねられており、生き延びられるか、そうでないかは、その瞬時の判断によって左右されるかもしれない。そのためには、普段から常に地震を意識することで我々は自分・家族・愛する人の命を守ることができるのです。

「Best」でなくてもいい、「Better」な積み重ねが大きな差となっていく！

<講演を聞いた生徒達の感想>

今日の講演には、本当に驚かされました。今の生活はとても危険で、いつでも死ぬ立場にあることを知り、とても焦りました。講師の先生が伝えたい事も、スクリーンや動画、話し方で凄く伝わってきて、自分の身は自分で守らなければいけないことに、とても怖くなりました。Best より Better。今できることを少しずつでも増やして安全な生活をつくりたいです。ありがとうございました。

今まで行っていた小学校・中学校のやり方だと私は死んでしまうな…とずっと思っていました。1番しっかりしたポーズだと思っていたのが全然違っていたことを知り、岐阜は地震が何時きてもおかしくないことは知っているので、教えていただいた素早くダンゴムシで膝を広げて足の指を閉じるポーズをやっていきたいと思います。とても参考になった2時間でした。今日は本当にありがとうございました！

今日沢山のビデオや写真を見て、地震のおそろしさを感じました。私の家は耐震だけど、家具の固定はしていないので、食器棚やタンスが倒れたり、テレビが飛んで来たりと思うので、家に帰ったら家族と相談して家具の固定をしたり、災害時の連絡方法などを確認したいと思いました。